



UQ-KU Project

九州大学 研究教育交流拠点

UQ-KU Project Newsletter

2017年4月

クイーンズランド大学-九州大学研究教育交流プロジェクト

ニュースレター 4月号

九州大学経済学部代表团 によるクイーンズランド大学訪 問

クイーンズランド大学は、九州大学経済学部より名誉ある代表团の方々をお招きしました。団長は大下丈平教授が務められ、瀧本太郎教授、儲梅芬(ちゅうめいふん)博士にもご同行頂きました。代表团の皆さまは、コストと管理会計、経済政策論と応用経済計量学、複雑系金融制度に対する数理モデルの分野に関する高度な専門知識をお持ちです。

九州大学経済学部からの代表团の皆さまは、UQ 経済学部のメンバーとミーティングを行い、共同研究および学術交流、そして学生交流の機会を探求されました。

さらに、代表团の皆さまはクイーンズランド大学付属英語学校(ICTE-UQ)の職員らとも会合を開き、個人のニーズに合わせた集中英語教育プログラムを行うことで、九州大学経済学部生にどのような利点があるかについて検討しました。

また、3月には九州大学超顕微解析研究センター長松村晶教授が、UQをご訪問されました。松村教授は、UQ工学部の学生を対象に、「Drift Compensated HAADF-STEM Imaging of Gold Nanorods with Picometer Order Precision」と題してセミナーを実施されました。ご講演に加え、松村教授はクイーンズランド大学の顕微鏡法・微量分析センター(Centre for Microscopy and Microanalysis: CMM)のセンター長 Roger Wepf 教授、そしてUQ機械鉱山学科長 Ross McAree 教授と面会されました。

松村教授はまた、UQ-KU研究教育交流プロジェクトの九州大学側のマネジャーであり、今滞在中にUQ側のマネジャーである野北和宏准教授と面会されました。両教授は、UQ-KU研究教育交流プログラムの進展や、両大学研究グループにおいて、現在進行中の新規共同研究について、そして同プログラムを継続的に発展させる上での最善策などについて協議を行いました。



UQスタッフメンバーが九州大学経済学部代表团を歓迎しているようす。(左から順に): 瀧本太郎教授(九大)、儲梅芬(ちゅうめいふん)博士(九大)、大下丈平教授、Jonathan Read氏(UQ)、野北和宏准教授(UQ)、タカヤマシノ博士(UQ)、Marco Faravelli博士(UQ)、ゴトゥルミ氏(UQ ビジネス・経済・法学部国際交流窓口)



松村晶教授のご講演「Drift Compensated HAADF-STEM Imaging of Gold Nanorods with Picometer Order Precision」のようす

UQ の学生にとっての研究機会

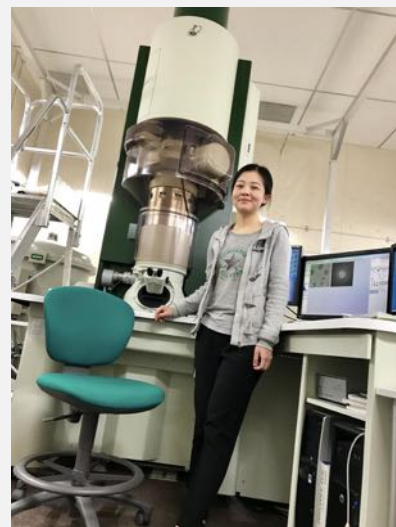
ニューズレター1月号で紹介のとおり、2016年11月から12月にかけて、UQの博士課程の学生 Chen Zhou さんと Flora Somidin さんが九州大学に滞在しました。九州大学と福岡での経験について、お二人から本号に寄稿して頂きました。

違いに触発されて

UQ-KU プロジェクトの支援を受け、松村晶教授にお世話になりながら、九州大学の超顕微解析研究センター(URC)で、2016年10月24日から12月22日までの2か月間を過ごしました。URCには高性能の設備がいくつもあり、特に、原子分解能電子顕微鏡や超高压電子顕微鏡があると聞いたときは、大変、興味をそられました。材料工学の研究者にとって、このような世界のトップレベルの設備を利用できるということは、大の甘いもの好きの人の目の前に、大きなケーキが置かれているようなものだと思います。

九州大学での研究中は、松村教授のグループと URC の技術者の皆さんが本当によくして下さって、すぐに環境に馴染むことができました。

毎週、グループミーティングやリーディングセミナーに参加し、他分野の研究者から違った発想を聞き、刺激を受けることができました。さらに、松村教授の「電子顕微鏡の物理的原理」の講義のお蔭で、電子顕微鏡の基本的な原理を学びました。URC では毎週、実際に自分の手で実験をしていましたが、山本さんと鳥山さんが、どんな質問にも辛抱強く答えてくれ、いつも優しく助けてくれました。お二人



をはじめ、研究スタッフ、技術者や学生の皆さん、そしてとりわけ、ご多忙中、研究の進捗を把握し、アドバイスをくださった松村教授に感謝申し上げます。

福岡での生活は、オーストラリアでの生活と似ています。皆何事にも熱心で、お互いに助け合います。しかし、同時に、特に食べ物と文化においては違いがあります。松村教授グループが開いてくれた私のウェルカムパーティーでは、お寿司やお好み焼きなどの伝統的な日本食を頂き、たこ焼き作りを体験しました。そして最後に、互いの幸せを願う博多の歌を皆で歌ってパーティーはお開きとなりました。とても面白かったです！週末はいつも、能古島、キャナルシティ、太宰府天満宮など福岡の面白そうな場所を探索して、博多ラーメンやうどんなどの日本食を楽しんでいました。福岡での生活は、楽しくて、お金もあまりかからないので、UQの学生のみなさんにも、UQ-KU 交流プログラムに参加して、地球の反対側の生活を体験することをお勧めします。

Chen Zhou

クイーンズランド大学 機械鉱山学科博士課程

九州大学体験談

昨年、私は幸運にも九州大学(九大)にて、松村教授の主催する Advanced Characterization Nanotechnology Platform Projectの下で海外研修プログラムに参加させて頂きました。当プログラムは2016年10月24日から12月23日までの約2ヶ月間実施され、私にとって貴重で有意義な経験となりました。そのような素晴らしい機会が得られたことを大変光栄に感じています。と言いますのも、私のような博士課程一年目の学生にとって、このように海外研修に参加できるということは非常に稀な機会だからです。また、この度資金を提供して頂いた研究機関、日本スペリア社にも大変感謝しております。旅費および九大での滞在費を全額負担して頂きました。私の研修の目的は、主に透過型電子顕微鏡法(TEM)に関するものだったため、研修は福岡県の九大伊都キャンパスにある超顕微解析研究センターで行われました。



九大では、教職員の方々をはじめ、技術者の方々や研究生達の優しさや支援にとっても感激しました。TEMに関しては全くの初心者でしたので、はじめは、そのような最先端機器の基本的な考え方を理解して周りに追いつくことが大変困難でした。しかし、専門家の方々のたゆまぬご支援と熱のこもったご指導のおかげで、言葉の壁こそあるものの、非常に限られた時間の中、なんとか多くのことをすばやく学び取ることができました。また、研修期間中に超高圧電子顕微鏡(UHV-TEM)について学び、そしてそれを利用して実験を行うというとても名誉な機会も頂きました。専門家であり、また非常に卓越した顕微鏡学者でいらっしゃいます前野宏志先生の献身的なご支援を賜り、実験は見事成功しました。巨大なUHV-TEMを扱う前野先生の優れた技術に、とても感銘を受けました。前野先生の技術とご支援のおかげで、私はUHV-TEMを利用した原位置加熱・冷却実験から多くの素晴らしい結果を得ることができました。私は、松村晶教授率いる研究チームのような、世界に名高い透過型電子顕微鏡の専門家の方々と一緒に仕事をできる機会を得られましたことを、大変光栄に思っています。

2ヶ月間、私は九大学研都市駅近くの寮に住むことになりました。九大伊都キャンパスからは少し離れていますが、私のように日本を初めて訪れる者には最適な環境だと思います。寮では朝食と夕食が支給され、日本での大切なテーブルマナーの基礎や、食事の際の礼儀作法を経験しながら学べる環境が整っています。2ヶ月間の滞在中に、私は日本文化、日本食、日本の建築様式の美しさを実際に見て経験することができました。ほぼ全てのものが効率的で程よく整然としている日本文化に心から感動しました。また、滞在中に体験した日本の秋は決して忘れられません。まさに目を見張る景色でした。そして、日本食がとても好きで、しまいには体重も増えてしまいました。それほど好きなのです。さらに、時間があるときは能古島や太宰府天満宮などの名所を訪れる機会もありました。日本では、本当に楽しい時間を過ごしました。他の学生の皆さんにも、ぜひこの交換プログラムを通して九大を訪れることを勧めたいと思います。また、九大を再び訪れることができる日を楽しみにしています。

2ヶ月間、私は九大学研都市駅近くの寮に住むことになりました。九大伊都キャンパスからは少し離れていますが、私のように日本を初めて訪れる者には最適な環境だと思います。寮では朝食と夕食が支給され、日本での大切なテーブルマナーの基礎や、食事の際の礼儀作法を経験しながら学べる環境が整っています。2ヶ月間の滞在中に、私は日本文化、日本食、日本の建築様式の美しさを実際に見て経験することができました。ほぼ全てのものが効率的で程よく整然としている日本文化に心から感動しました。また、滞在中に体験した日本の秋は決して忘れられません。まさに目を見張る景色でした。そして、日本食がとても好きで、しまいには体重も増えてしまいました。それほど好きなのです。さらに、時間があるときは能古島や太宰府天満宮などの名所を訪れる機会もありました。日本では、本当に楽しい時間を過ごしました。他の学生の皆さんにも、ぜひこの交換プログラムを通して九大を訪れることを勧めたいと思います。また、九大を再び訪れることができる日を楽しみにしています。



Flora Somidin

クイーンズランド大学 機械鉱山学科博士課程

詳細は本プロジェクトのホームページをご覧ください

<http://www.mechmining.uq.edu.au/uq-ku-project>